

2018年3月期 決算補足説明資料

株式会社 旅工房

(証券コード6548)

2018年5月11日



■ 決算報告

■ 2019年3月期業績予想

■ 決算報告

■ 2019年3月期業績予想

決算報告：連結損益計算書サマリー

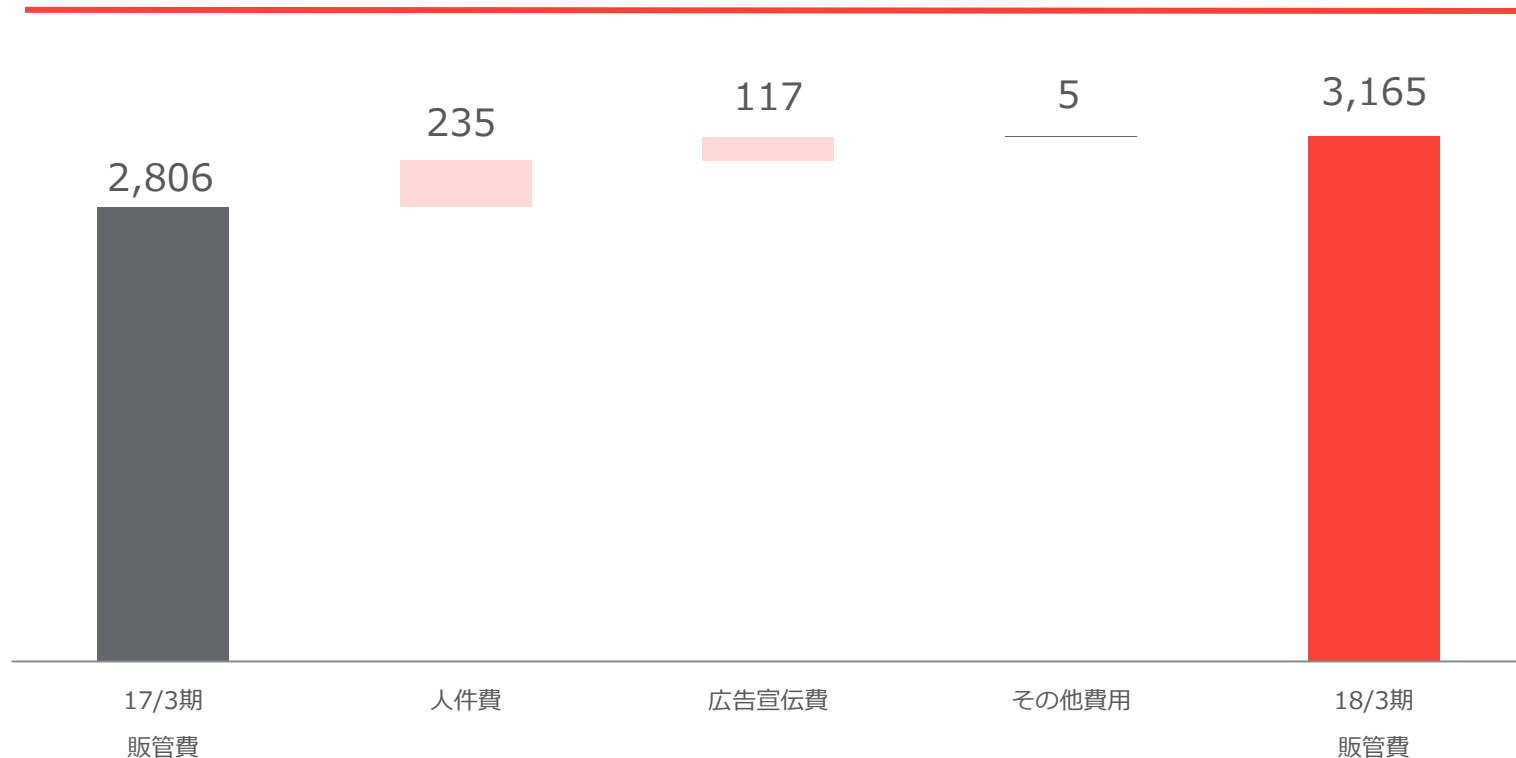
- 売上高は、24,257百万円（前年同期比107.7%）となりました。
- 売上総利益は、3,246百万円（前年同期比104.1%）となりました。
- 販管費は、今後の成長に向けた積極的な人材採用と広告宣伝費の増額により、3,165百万円（前年同期比112.8%）となりました。
- 営業利益は、81百万円（前年同期比26.1%）となりました。
- 営業外費用として16百万円を計上し、経常利益は69百万円（前年同期比23.2%）となりました。

単位：百万円	17年3月期（前期）	18年3月期（当期）	増減額	前年同期比
売上高	22,526	24,257	+1,731	107.7%
売上総利益	3,120	3,246	+126	104.1%
販売費及び一般管理費	2,806	3,165	+358	112.8%
営業利益	313	81	△231	26.1%
経常利益	300	69	△230	23.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	192	39	△153	20.3%

事業部門	事業の振り返り
個人旅行事業	<ul style="list-style-type: none">● アメリカ欧州方面については、回復傾向にある旅行需要を着実に取込むことで、取扱額及び粗利のいずれも前年同期に比べ増加いたしました。● ビーチ方面は、ハワイを中心に価格競争が激化したことに加え、バリ島の火山噴火やグアムの北朝鮮情勢による渡航者減少が響き、取扱額及び粗利のいずれも前年同期を下回る結果となりました。● 個人旅行事業全体としては、取扱額は前年同期を上回ったものの、粗利については前年同期を下回る結果となりました。
法人旅行事業	<ul style="list-style-type: none">● 業務渡航ならびに団体旅行需要の取込みが好調に推移したことから、取扱額及び粗利のいずれも前年同期に比べ増加いたしました。
インバウンド旅行事業	<ul style="list-style-type: none">● 訪日旅行事業の受注は引続き好調に推移したことから、取扱額及び粗利のいずれも前年同期に比べ増加いたしました。

- 販管費は、前年同期比358百万円の増加となりました。
- 今後の事業拡大に向けて人員を増強したことにより、人件費が前年同期比235百万円増加しました。
- 当期及び来期出発の旅行需要の取込みのため積極的なマーケティング施策を実施した結果、広告宣伝費は前年同期比117百万円増加しました。

販管費比較（百万円）



決算報告：連結貸借対照表

- 旅行予約の受注増加により、前年同期末と比べて流動資産、流動負債ともに増加しております。

単位：百万円	17年3月期（前期）	18年3月期（当期）	増減額
流動資産	2,270	3,597	+1,327
現金及び預金	997	2,163	+1,165
旅行前払金	668	686	+17
固定資産	579	580	+0
有形固定資産	122	86	△35
無形固定資産	76	126	+49
投資その他の資産	380	367	△13
資産合計	2,850	4,178	+1,327
流動負債	2,285	2,912	+626
旅行前受金	1,643	2,087	+444
固定負債	90	72	△18
負債合計	2,376	2,985	+608
株主資本	466	1,178	+712
その他の包括利益累計額	7	14	+7
純資産合計	474	1,193	+719

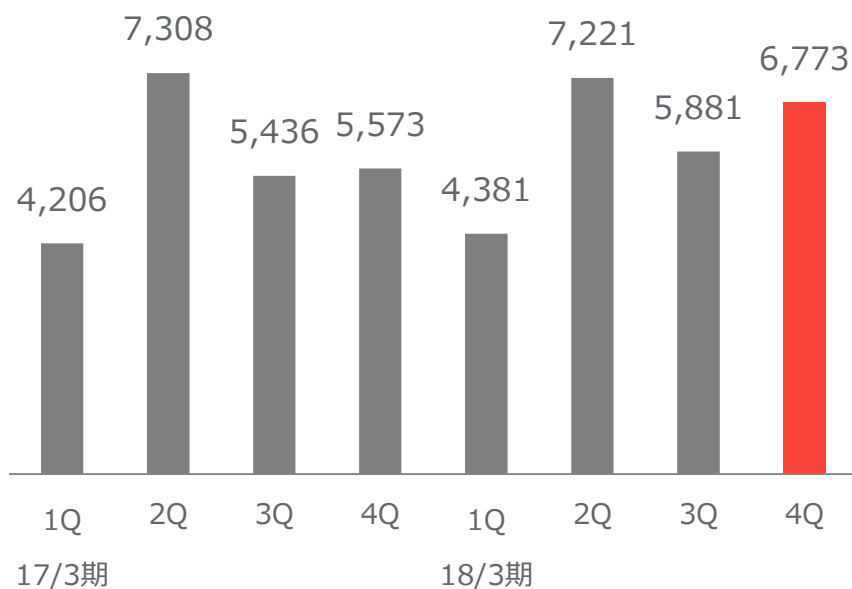
決算報告：連結キャッシュ・フロー

- 当連結会計年度末における現金及び現金同等物の期末残高は2,117百万円と、前年同期末と比べ1,162百万円の増加となりました。

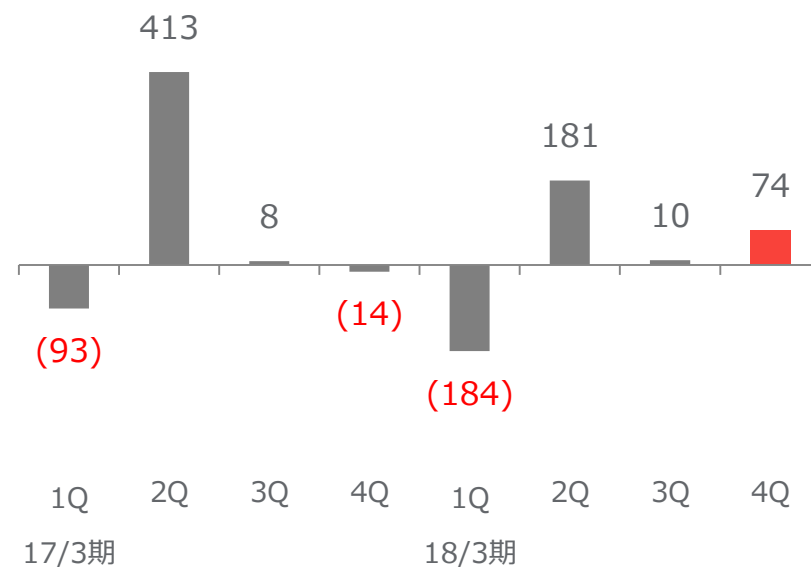
主な変動項目 単位：百万円	17年3月期（前期）	18年3月期（当期）	当期の主な変動要因
営業活動による キャッシュ・フロー	△147	589	<ul style="list-style-type: none"> 増加要因：旅行前受金の増加442百万円、仕入債務の増加99百万円等 減少要因：売上債権の増加127百万円等
投資活動による キャッシュ・フロー	△119	△70	<ul style="list-style-type: none"> 減少要因：固定資産の取得による支出75百万円、差入保証金の差入による支出13百万円等
財務活動による キャッシュ・フロー	△31	645	<ul style="list-style-type: none"> 増加要因：株式の発行による収入669百万円等 減少要因：リース債務の支払による支出22百万円等
現金及び現金同等物 の増減額	△293	1,162	
現金及び現金同等物 の期末残高	955	2,117	

- 18年3月期第4四半期（2018年1－3月）の売上高は、個人旅行事業及び法人旅行事業ともに好調に推移したことから、前年同期（2017年1－3月）に比べ1,199百万円増加いたしました。
- 18年3月期第4四半期（2018年1－3月）の営業利益は、回復傾向にある旅行需要を順調に取り込み売上高が増加したことに加え、為替レートが想定より円高に推移したことにより外貨建の仕入取引に係る売上原価が減少したことから、前年同期（2017年1－3月）に比べ89百万円の増加となりました。

売上高



営業利益



■ 決算報告

■ 2019年3月期業績予想

- 欧州方面の旅行需要が好調に推移することが見込まれ、また朝鮮半島情勢の安定化に伴いアジア方面の需要回復が予想されます。
- 当社グループでは、引続きオンラインサービスの利便性向上及び「トラベル・コンシェルジュ」の対応力向上を推進してまいります。
- あわせて、法人営業部門を引続き強化するとともに、インバウンド事業の推進により海外における旅行需要獲得にも努めます。
- 以上より、売上高は28,960百万円（前年同期比119.4%）を見込んでおります。
- 経費面では、引続き中長期の収益力向上のためのシステム投資と顧客基盤拡大のためのマーケティング強化を積極的に推進することと、人材投資として人件費と採用研修費用の増加を見込んでおります。
- 営業利益は107百万円（前年同期比131.2%）、経常利益は100百万円（前年同期比143.8%）の見込みです。

単位：百万円	18年3月期（実績）	19年3月期（予想）	増減額	前年同期比
売上高	24,257	28,960	+4,702	119.4%
営業利益	81	107	+25	131.2%
経常利益	69	100	+30	143.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	39	63	+24	162.3%

免責事項

- この資料は投資家の皆様の参考に資するため、株式会社旅工房（以下、「当社」という。）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、作成日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 当資料に掲載されている内容は、資料作成時における当社の判断であり、作成にあたり当社は細心の注意を払っておりますが、その情報の正確性、完全性を保証または約束するものではなく、内容についていかなる表明・保証を行うものでもありません。

将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。